

・ご執筆に際しては下記の統一事項に合わせて表記いただけますよう、お願いいたします。

1. 文体：常体（…である，…だ）または，敬体（…です，…ます）で統一します。
 2. 使用文字：
和文（タイトルや，小見出しなどはMSゴシック，本文はMS明朝）※半角は使いません。
英文（Century）※固有名詞ではない日本語を英字で表記する場合は斜体に。例）*sashimi*
数字（1桁の場合，MS明朝全角，2桁以上の場合，Century半角）
 3. 文字の大きさ：フォーマットに，使用する字体とともに大きさが例示されていますので，それに沿ってご執筆ください。
 4. かな書き：別添「漢字のかな表記に関する統一事項」のように統一しております。ご参照の上ご執筆ください（編集時，この統一事項に準じて変換させていただくことをご了承ください）。
 5. 句点について：「 」 （ ） 内の文章の終わりには句点をつけません。例）「…であった」
読点は「、」ではなく「，」（全角コンマ）を使用します。
 6. かぎ括弧の扱い：
「…」の例）短編小説，対話，引用語，楽曲名など，地の文と分けたい言葉
『…』の例）著作物・映画名・CDアルバム：例）『本物の英語力』，『ドライブ・マイ・カー』
英字の場合，和文の「 」にあたるもの：例）“Imagine” “Peace begins with a smile.”
和文の『 』にあたるものは斜体：例）*Japan Times* *Gone with the Wind* *Forest Gump*
 7. 略語・略称は，初出時に正式名称を表記：例）CEFR（欧州言語共通参照枠）
 8. ページ表記：p.2, pp.4-8
 9. 参考・引用文献の表記：
例）和書
柴田義松（2006）『ヴィゴツキー入門』寺子屋新書，子どもの未来社。
池田真（2013）「CLILの原理と指導法」『英語教育』2013年6月号，pp.12-14. 大修館書店。
文部科学省（2017）「新学習指導要領解説」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htmより取得（2021年10月）
例）洋書
Byram, M (2008). *From Foreign Language Education to Education for Intercultural Citizenship* (pp.43-53). *Multilingual Matters*.
※引用する論稿などのタイトルは「_」で表します。
- ・以上ですが，場合によっては，このほかにも編集上の決まりごととして，こちらで修正させていただく場合がありますことをご承知おきください。その際には編集過程でご連絡いたします。
以上，どうぞよろしくお願いいたします。